



【第4弾】

部活動派遣費問題を考える地域円卓会議

沖縄・離島の子ども派遣基金事業の取り組みを振り返り、
今後の基金のあり方を考える

実施報告書

日 時： 2022年11月12日（土）13:30-16:10
場 所： なは市民活動支援センター 会議室2（那覇市銘苅2丁目3-1 2階）
主 催： 公益財団法人みらいファンド沖縄
協 力： NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】【第4弾】部活動派遣費問題を考える地域円卓会議



■日時：2022年11月12日（土）13:30-16:10

■場所：なは市民活動支援センター 会議室2
（那覇市銘苅2丁目3-1 2階）

■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）

■来場者数：11名（教育機関、企業など）

■主催：公益財団法人みらいファンド沖縄

■協力：NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供

嘉数 菜莉子（公益財団法人みらいファンド沖縄/沖縄・離島の子ども派遣基金プログラムオフィサー）

沖山 亜紀子（NPO法人豊見城市体育協会 事務局）

金城 充（一般社団法人沖縄県サッカー協会）

喜納 正雄（株式会社ハブクリエイト 代表取締役）※録画

沖縄・離島の子ども派遣基金事業の取り組みを振り返り、 今後の基金のあり方を考える

公益財団法人みらいファンド沖縄では、3年間に渡り、子どもたちの体験保障を目的とした、部活動の派遣費に関わるアクションリサーチを行ってきました。競技種目・地域・離島という分担で3つのパートナー団体とともに、一部旅費負担を行いながら調査しました。結果として、貧困問題を中心に、居住地域や競技種目による格差や、手配自体の困難さ等、周辺の課題が浮き彫りになり、様々な「あきらめ」があることがわかってきました。今回の円卓会議では、この活動を振り返り、「体験保障と移動コスト」という課題の中での当財団の役割と他セクターとの連携も含めた切れ目（あきらめ）のない支援の体制と手法について話し合います。

センターメンバー



嘉数 菜莉子
公益財団法人みらいファンド沖縄
沖縄・離島の子ども派遣基金プログラムオフィサー



金城 充
一般社団法人
沖縄県サッカー協会



沖山 亜紀子
NPO法人
豊見城市体育協会 事務局



喜納 正雄
株式会社
ハブクリエイト
代表取締役



幸地（落合）
千華
一般社団法人 CoAr
代表理事、ケイ
スリー株式会社



下地 麗子
琉球放送株式会
社 テレビ本部
報道制作局報道
制作部 スポーツ
キャスター



和田 泰一
一般財団法人
日本民間公益
活動連携機構
事業部長

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) みらいファンド内に設置する今後の基金の在り方として、トライアル実施を進めてきた大会基金は、基金メニューとしてあと一歩。資金造成の選択肢の一つになるような基金にしていきたい。
- 2) 全体基金（奨学金型）は、まずは民間で支える仕組みを作っていきたい。そのために困窮者層の調査と啓発をセットで進めていく。
- 3) また、特に離島に暮らす子どもたちは、本島の子ども達との体験格差が生じており、子どもの権利の問題として沖縄県がサポートすべき。そのために、県への政策提言を進めていく。
- 4) 体験活動は多様であり、部活だけではなく、様々な体験の機会を支えていきたい。そして、その体験による子どもたちの変化や学びを評価し、「体験の大切さ」について社会との合意を目指したい。
- 5) 派遣者と支援する人とのコミュニケーションを意識して、企業や地域とともに子どもたちの体験をどう支えていくかを再考したい。

■参加者によるサブセッション

沖縄・離島の子ども派遣基金事業の取り組みを振り返り、 今後の基金のあり方を考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 今後の基金の在り方
→今後どう基金集める？→有効に使うには
必要性？
- ・ 西原高校の例
→旅費
タオル 500 円→500 円で親が売る→お礼とか
報告なし
- ・ 優勝したイベント感ある
- ・ メニューとしての基金として持つ。協力する
人を増やす
- ・ 昔、資金助成→バザーなど努力
今、補助だけもらう、不平、地域の密着度が
ない、地域で支える
- ・ あきらめをどう出すか！！むずかしい。離島
とくに
→補助出てますよ、入りやすい。大会をやる
があつての補助
- ・ 文科省の 0.8%、スポーツ庁 643 億
- ・ 企業型ふるさと納税
- ・ 同じクラブチーム、スポーツ団のメンバー
でも住んでいる方の市町村で補助費違う
- ・ 部活、クラブ、出席、欠席扱い。内申に影響
→決まっていることをわかっていない

②

- ・ 豊見城、選手、帯同、登録外など助成
- ・ 県大会をするにも離島だと
- ・ 体協に関わっていると余裕がなくで貧困世帯
に目を向けられなかった。選手強化に力をい
れていたこれまで
- ・ 差別されていたこと、今とりくみかかりたい

- ・ 何かすると受益者負担、スポーツだけの問題
じゃない
- ・ 見落とされている、沖縄はこれまで
- ・ 離島でも差がある
- ・ 大学地域支援
- ・ コーチ派遣にも格差がないか
- ・ ぜいたくではなく、子ども時代に豊かな部活
活動を体験した人がその後の人生でどう社会
へ貢献したか可視化してほしい
- ・ オリックス宮城さんが宜野湾市に貢献
- ・ 休眠が終わった後、豊見城だけだとむずかし
い
- ・ 大会開始まで 2 weeks とかある短い
- ・ 基金の内容についてパンフレット作成→体協
のノウハウを

③

- ・ 部活動まで支援必要？
- ・ 勉強より部活をがんばる子もいる
- ・ 支援が必要かが広まっていない
- ・ 世界を見たとき海外への支援が必要か？
- ・ 親の考えを考える
- ・ 部活→クラブ
- ・ 子どもの体験保障

④

- ・ 離島はよりハードルが上がる
→属性によってハードルがある人の負担を下
げられるなら支援したい
- ・ 少年野球の指導者やっていた。派遣費の課題
感じていた
- ・ 沖縄市は約 5 割

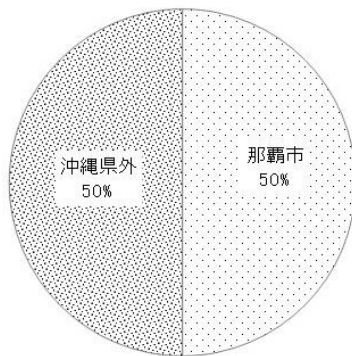
- ・ アルミ缶の交換
- ・ 協力できない保護者もいる
- ・ 強豪校になると「またか！」となる
→報告もない
→常日頃から資金造成したほうが良い
- ・ 行くことの目的を
- ・ 心理的負担。ステークホルダー大きい
- ・ 行政からの支援の幅が
- ・ 困窮問題とセットで語れると
- ・ 上間先生の話「部活やめてつながりが無くな
って若年出産に」
→勉強だけではない
- ・ 指導者負担の問題も
→やりがいだけに頼りがち
→保護者

【第4弾】部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

◆概要

- ・日時：2022年11月12日（土）13:30-16:10
- ・場所：なは市民活動支援センター会議室2
（那覇市銘苅2丁目3-1 2階）
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：18名 ※センターメンバー含む
（アンケート回収2名、回収率11%）

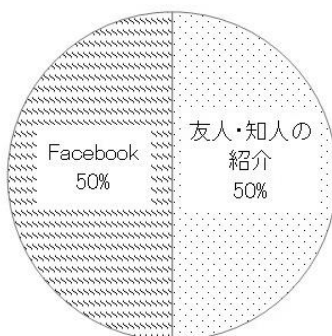
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：5（5点中）※未回答1件

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
1名	0名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 課題の理解が深まりました。「選択できる」ことをあきらめさせたくない思いが強くなりました。クレジットカードのポイントが選べる（Unicef や赤十字は既にある）なども企業協賛のひとつかもしれないと思いました。

（未回答）

- ・ 課題だけでなく、論点、視点を広く可視化される。素晴らしいアクションリサーチだと感じました。ここをきっかけにいろいろ進むといふこと

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 改めて、部活（特にスポーツ）は、様々な特権が前提というか大きく影響する世界だと思いました。世帯収入に左右される、住んでいるところ、家族の協力の有無、その種目のパワーなど。それによって子どもの機会に不平等が生じないために仕事をするのは公の役割かと
- ・ プロスポーツチームとのつながりづくり

(写真) 会場の様子



<第4弾> 部活動派遣費問題と考える

地域円卓会議

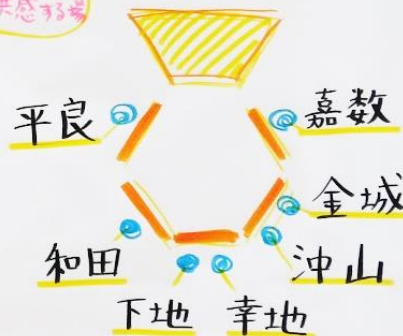
2022.11.12(土)

13:30~16:10

④ なのは市民活動支援センター

沖縄・離島の子どもの派遣
基金事業の取り組みを
振り返り、今後の基金の
あり方を考える。

119回目
地域の困りごとと
社会課題として
共有・共感する場



主催 公益財団法人
みらいファンド沖縄

協力 NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供

嘉数茉莉子さん
(公財)みらいファンド沖縄

嘉数
金城
沖山
喜納

沖縄の子どもたち
体験に格差をうまな社会づくり

休眠預金事業 3ヶ年

FC琉球 上里選手のお話

子どもの
体験保障

部活動
の体験



- 沖縄県サッカー協会
- 豊見城市体育協会
- ハブクリエイト

金城充さん
沖縄県サッカー協会

19件

- コロナの影響 → 未助出せず(協会)
- クラブチーム、特別支援学校へも助成
- 市町村の未助の形はそれぞれ(多様)
- レギュラーでなく、旅費出せる子が行ける

離島へ

沖山 亜紀子 さん

豊見城市体育協会

136件 908万円 (合計補助)

- 行政補助 → 子どもたちのみ
- 保着者・指導者・登録外選手へも補助してきた。
- 2020・21・22
→ コロナ前の派遣件数へ。
- 子どもたちのケガ・体調管理できた (保着者)
- 県外派遣を通じた体験での成長
- フクシオンリサーチ

のべ162件

のべ1,134人の派遣サポート

休眠預金 約2,000万円の旅費負担

6.5〜7万/人回の負担 → 25,349円
(平均補助額)

喜納 正雄 さん

ハブクリエイト

八重山

29件

- 県大会への参加で渡航の必要
- 兄弟いると負担倍 (飛行機・ホテル)
- 文化系
- 必要メンバーそろわずもめた。
→ チームへの影響
- 派遣費を気にせず大会参加したい。
道具・練習着の

ビデオ
レター

③

1年目 2020 課題の可視化

と実態の把握

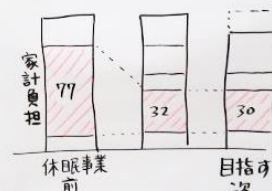
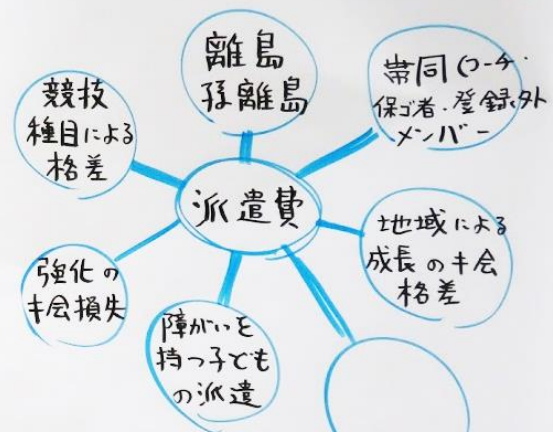
- 派遣費補助のニーズ高き確認
- 全市町村調査

2年目 2021 実行団体を通じた 旅費負担と調査と本格化

- 円卓会費を重ねる (計13回)
- 家計負担率を可視化

3年目 2022 来期に向けたしめ

- 離島の負担、夏休みの高さ
- 大会基金を実施
- 「白書」の作成



誰でも利用できる
大会基金

全体基金

離島基金

基金

大会別 ⇒ ○

種目別 ⇒ ×

地域別 ⇒ △

ふるさと納税 ⇒ ○△

県への離島問題への提言
旅費コスト削減への働き

④



幸地(落合)千華さん

CoAr、キヌソー

- 行きたいのに行けない。 ユニバーサル
 - ↳ 納得感高い 共感性高い
- 家計負担率。 ういごうくならず助成できるしくみへ
- 世帯収入に対する家計負担率。 とみていきたい
 - ↳ 寄付者側の心理として、
 - ↳ 応援したい対象 みせ方
- 子どもの体験格差うまな。 木助率と上限額をどう設定するか
- 就学援助 世帯
 - ↳ ボルタリングやりたい、でも遠い
 - ↳ あきらめに
- めいやくをかけるから言わない
 - ↳ 顕在化されない



下地麗子さん

琉球放送 スポーツキャスター

メディアの視点から

視聴者から

「わざわざ部活動へ木助する
必要あるのか (子どもの貧困ある中で)
スポーツはぜいたく品 という意見
自己責任にされてしまう」

離島の学校が全国大会
へ行くとしても盛り上がる。
消費されてきた。反省点も

競技によって差がある
スポーツ少年団に所属している子に木助
マイナースポーツではしりになって
転校する子も しまう
地域に育てられた、という実感なく
お互いもったいない

ある
おの村
では

● 離島の吹そうがくよほう

↳ 200万円かかる → 断念

● 強い学校であると

年8回、40万円の負担
県外へ

● 県大会 八重山

準決勝、PKで負けたが、県内でも
大きな舞台で力を出しきる機会

● いろいろな意見ある中で

どう県民の気運を高めていくか



和田泰一さん

JANPIA 事業部長

移動の自由の制限

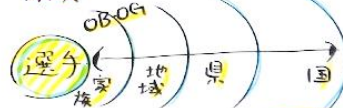
↳ 人権の保障

貧困と人権 移動権

研さんついで交流

あきらめないためにはコストがかかる

用具

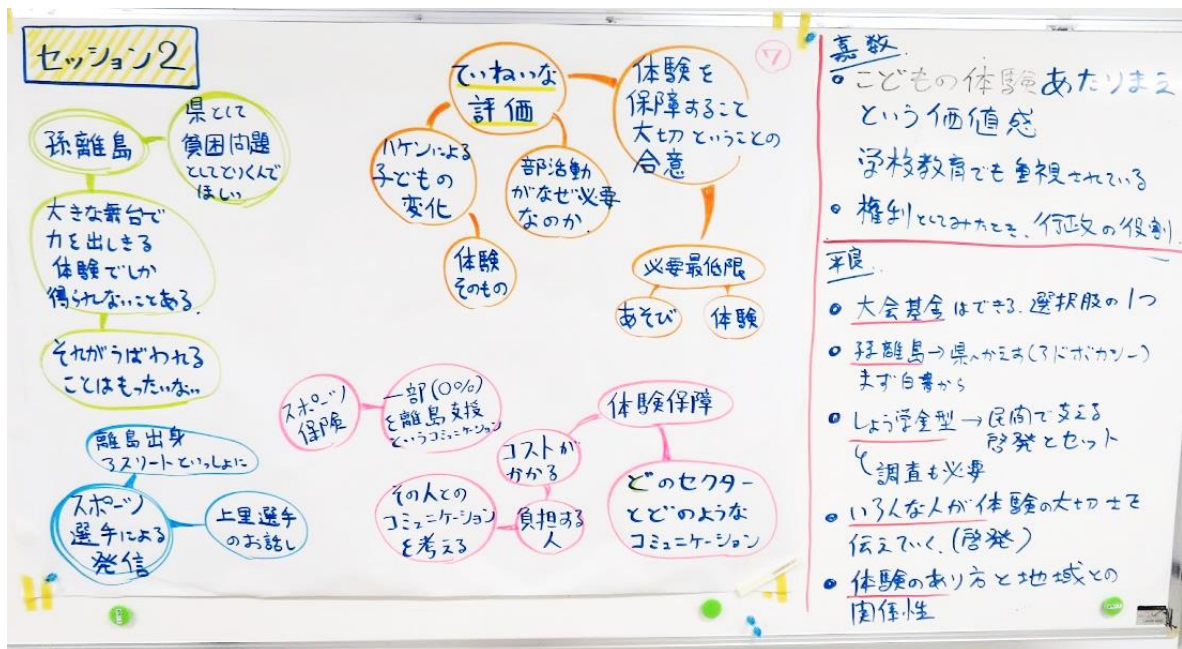


選手と支援する人の距離が人権関係性

サポーターをいかにひろげていくか

共感者 説明が必要
ふやしていく (思っただけでなく)

スポーツ → チャレンジすること 調性
育まれていく



(サブセッション記録用紙)

★ 今後の基金のあり方
→ 今後どう基金をつくる？ → 有効に使うには
必要性？

西原高校の例
→ 旅費
4万500円 → 500円で済む →
朝が来る、優勝したイベント感もある
お礼とかお菓子など
企業型ふじと
成果の発表
ふるさと納税

★ X-ニューとこの基金、という手っ
運動の楽しさを伝える人を増やす
同じスポーツ団のメンバーで
いきなりやるか町内
で補助を渡す
都立一宮高校
ハダダ内申に形を
つめることを
おかしな話

昔. 資金力成りバカなほど努力
今. 補助だけでもいい、下層平
地域への密着度が低い、地域が変える

なまらめとどうするか、ムズカシ → 補助があまりない、入部も
離島特 大会をやるがあまりの補助

- ・豊見城 選手・満員・定額制 などAが
- ・県大会をすれば、鹿児島と
- ・1年協にかかわっていると、余裕なくて、貧困世帯に
めを向けらなかつた。選手強化に力を入れた
差別されていたこと。今、ヒリヒリかきつた...
何かするに投資が負担 おおいでいる、
沖縄はここぞ、
スゴイだけの問題じゃない。
- ・鹿児島差がある。大学地域支援
- ・Jリーグ派遣にも格差がないか
- ・ゼミ生ではなく、子供時代に、豊かな
生活を経験した人が、その人生で
どう社会へ貢献したか可視化してほしい
- ・オックス宮城さんが宮の松市に「至る」
- ・1年眠がおきたあと... 豊見城だとムズかしい。
大会開始まで、2weeksとかが短いな。
基金の内容について、1年プレイ作成 → 1年間の
内訳を

～ 新出の支援者へ
 豊見城の生活がわかるように。
 支援が必要かを伝えている。
 海外へ世界を見んと、海外への支援
 機を要する
 親の考えを要する。
 海外へ行く人とは、海外へ行く人はいない。
 海外 → 海外
 海外へ行く人とは、海外へ行く人はいない。
 海外の生活を知る

- ・鹿児島はよりハードルが上がる
- 属性によってハードルがある人の
負担を下げようとして支援したい。
- ・屋 少年野球の指導者やっていた。
派遣費の課金を感じていた。
- ① 沖縄市は約5割。
3人3人の換金。
協力できない保護者もいる。
強引に校になると「またか!」となる。
→ 報告もない。
- 常日頃から資金造成した方がよい
- ② 行く前に ~~目的~~
の目的を

心理的負担 ストレスホルダー大きい。
 行政、からの支援の幅が
 全国問題とセメントで話すと
 上岡先生の話「都道府県でつながり
無くて、若年
→ 負担だけではない 出資に。
 指導者負担の問題も。
 → マリバにだけ頼りがち
 → 保護者、地
 11月、不登校